Biography

「サンドロ・ルッソが興味を持って私のピアノ音楽を演奏してくれるのをとても嬉しく思っています。彼は演奏に全力を注ぎ、細部にまで注意を払い、また、これらのさまざまな作品には深い解釈が必要なのを十分に理解しています。私の音楽をいつまでも楽しんでくれることを願います。」（マルク＝アンドレ・アムラン）

「彼の芸術的追求や、高い水準を目指した熱意、表現方法への献身、そして、どのように音を生み出し、ステージを越えて音楽を伝えてくるのかを、私は楽しんできました。彼には目を見張るような存在感があり、エレガントなピアニズムと美しい音の偉大な伝統を呼び覚まします。」（ジェフリー・ビーゲル）

「サンドロはリストのピアノ協奏曲第2番イ長調を、鮮やかなテクニックと堂々とした表現技法で華麗に演奏しました。彼はピアノを歌わせることができ、たとえフォルテであっても力任せに音を出すことはありません。彼はその作品の技巧的表現に熟達しており、繊細な詩情をより叙情的な物語として表現しました。」（デヴィッド・ギルバート）

深い詩情と独特のスタイルで高い評価を得ているサンドロ・ルッソは、世界各地の会場でソリストとして演奏するよう求められています。彼は火花が飛び散るような超絶技巧で満場の称賛を浴び、また彼の演奏は、しばしば、エレガントなピアニズムと美しい音の偉大な伝統の復活であると称されます。

シチリア、サン・ジョヴァンニ・ジェミニで生まれたサンドロ・ルッソは、幼い頃から並外れた音楽的才能を発揮しました。1995年にV. ベッリーニ音楽院を首席で卒業し、ロンドンの英国王立音楽大学からピアノフォルテ・パフォーミング・ディプロマを「優等」で取得しました。学生でありながら、セニガッリア国際ピアノコンクール、イブラ・グランド・プライズなど数多くのイタリア国内、国際コンクールで上位入賞しました。それにより、各国の最も格式あるコンサートホールで演奏するよう招待を受けました。

2000年、アメリカ合衆国に在住するようになって間もなくのこと、バーゲン・フィルハーモニック管弦楽団協奏曲コンクールで優勝し、ニュージャージー州イングルウッドにあるバーゲン・パフォーミング・アーツ・センターにおいて、マエストロ・デヴィッド・ギルバートの指揮により、リストのピアノ協奏曲第2番イ長調を演奏しました。2002年の初めに、ルッソはイタリアのパレルモにある有名なポリテアマ劇場でショパン・リサイタルを行い絶賛されました。その後、世界的に最も有望な若い才能を披露する国際演奏会、ヌオーヴェ・カッリエーレ・ミュージックフェスティバルに出演しました。

ルッソは、ロンドン、メンフィス、ニューヨークでのラフマニノフ協会主催のソロリサイタルのほか、アメリカ・リスト協会（ニューヨーク支部）主催のソロリサイタルも行いました。また、パリのサル・コルトー、アムステルダムのコンセルトヘボウでも演奏しています。近年では、カーネギーホールやニューヨーク市にあるイタリア文化会館、ミュージックフェスティバル・オブ・ザ・ハンプトンズにおけるモイセイヴィチ・リサイタル・シリーズ、シカゴでのデイム・マイラ・ヘス・シリーズ、カリフォルニア州サンタローザでのコンサーツ・グランドやイギリスのマンチェスターで行われるチェサムズ・インターナショナル・ピアノ・フェスティバルでも演奏を行いました。チェサムでは、チェサム音楽院の有名なサマースクールの教授陣のひとりでもありました。

ルッソは、ソリストとしてブラティスラバでスロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団と共演、また2008年のミュージックフェスティバル・オブ・ザ・ハンプトンズのオープニング・ガラにおいてブリュッセル室内オーケストラと共演、2008年7月には生まれ故郷であるシチリアに凱旋しました。シチリア交響楽団のツアーに同行し、野外のコンサートで、ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番を三夜に渡り演奏しました。2009年6月には、ニューヨーク・アジアン・シンフォニー・オーケストラとのジャパンツアーでもソリストとして演奏をしました。

ルッソの幅広いレパートリーは、あらゆる時代の名曲から、メトネル、ソラブジ、ゴドフスキーなどのコンポーザー・ピアニストによる、ピアノ史においてあまり知られていない挑戦的な作品にまで及びます。彼はまた、ローウェル・リーバーマンやポール・モラヴェック、マルク＝アンドレ・アムランによる楽曲を初演する栄誉も授かっています。

サンドロ・ルッソの演奏は、WFMTシカゴ、WQXRニューヨーク、RAI（イタリア放送協会）の"RaiSat Show"、スロヴァキアのテレビ放送などで放送されました。2009年1月、ベヒシュタイン・アメリカは、かつてフランツ・リストが所有していた歴史的な1862年製ベヒシュタインピアノ（シリアルナンバー576）を演奏するDVDの収録をルッソに要請しました。さらに今年の2月に、ルッソは、スタインウェイ＆サンズ CD-75（ヴラディーミル・ホロヴィッツが、Metでのコンサートや、80年代にロンドンで英国王室のために演奏した伝説のピアノ）を演奏するDVDを製作しました。